

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

『ゴルフ離れが加速する2020年』

宮里藍選手が、今季限りでの現役引退を表明した。宮里選手は、2003年のミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンで30年ぶりのアマチュア優勝を史上最年少の18歳101日で達成した。ここから、「藍ちゃんファイバー」が始まり、女子ゴルフの人気を一気に押し上げた。

彼女の功績は何と言っても、多くの後輩を育てたことではないだろうか。現在、活躍する若手の選手たちは、口を揃えて憧れの選手に宮里選手を挙げている。彼らを直接指導したわけではないが、コースでの振る舞い、メディアやファンへの対応、ゴルフに対する姿勢…彼女の行為、言動、一挙手一投足が、プロゴルファーを目指す少女少女たちの手本となり、憧れとなっている。それは本当に素晴らしいことである。

人気選手の登場により、ゴルフ界は盛り上がりを見せるも、「レジャー白書2016」によれば1992年のピーク時以降、市場規模、参加人口、参加回数は減少の一途を辿っている。ピーク時には2兆円に届くといわれた市場規模も2015年には9000億円を割り、10年前には1080万人いた参加人口も、2015年には760万人まで減少している。

世代別のゴルフ人口はというと、ゴルフ場利用者数は70代が141万人、60代が171万人となっている。一方、30代は74万人、20代に至っては38万人と、見事な逆三角形を描いている。ゴルフ離れの理由の上位に挙げられるのが、「プレーフィー(料金)が高い」「用具価格が高い」「所得が減った」などお金の問題である。次いで「うまくならなかった」という技術レベルの問題があるようだ。

70歳を超えると、だいたい健康の理由などにより2人に1人はゴルフを辞める。ゴルフの本当の危機は団塊の世代が70歳を迎え、オリンピックが終わる2020年なのかも知れない。年々、ゴルフ場も様々な工夫をして、プレーフィーを安くしたり、気軽に一人でもプレーすることができたり、インターネットで予約できるようにになってきている。若い人たちにも、ゴルフに親しみを持ってもらうために極端ではあるが、幼少期から体育の授業に取り入れるなど、ゴルフを通じて人間的に成長できるということを知ってもらう多くの機会を持てればと思う。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。